

授業概要

日本、中国、インド、韓国を代表とするアジアの主要国は、世界経済の主役である。今後、日中経済関係が益々深まっていくと思われる。本講義では、アジアの経済発展メカニズムを整理するとともに、東南アジア、東アジア、南アジア各国の経済状況を概観することとする。とりわけ、アジアの主要国である日本とアジア諸国の相互関係という視点から講義を試みる。

授業計画

| | |
|--------|---------------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス・アジア経済を見る目 |
| 第 2 回 | 世界の中のアジア・アジアの経済発展の概況を講義する |
| 第 3 回 | アジア経済発展のメカニズム①について講義する |
| 第 4 回 | アジア経済発展のメカニズム②について講義する |
| 第 5 回 | アジア経済発展のメカニズム③について講義する |
| 第 6 回 | 東南アジアの経済①について講義する |
| 第 7 回 | 東南アジアの経済②について講義する |
| 第 8 回 | 東アジアの経済①について講義する |
| 第 9 回 | 東アジアの経済②について講義する |
| 第 10 回 | 日本の経済—歴史・現状・論点について講義する |
| 第 11 回 | 日本型資本主義について講義する |
| 第 12 回 | 中国型資本主義①について講義する |
| 第 13 回 | 中国型資本主義②について講義する |
| 第 14 回 | 南アジア経済について講義する |
| 第 15 回 | アジア経済の課題と展望について講義する |
| 第 16 回 | 筆記試験 |

到達目標

躍進するアジア経済の発展メカニズムおよび各国経済状況を概観することで、アジア経済のダイナミズムを把握するとともに、アジア域内及び日本と中国、インド、韓国、そして東南アジアとの相互関係を理解する。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出る中央アジア地域の経済実態や課題について、質問や議論に積極的に取り組んでほしい。そして授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後 30 分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

予習・復習

授業のレジュメを把握し、参考書の該当箇所と新聞・WEB サイトの中央アジア経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

成績は、レポート(30%)と期末試験(70%)により評価を行う。

テキスト

特定の教科書は使用しない。